

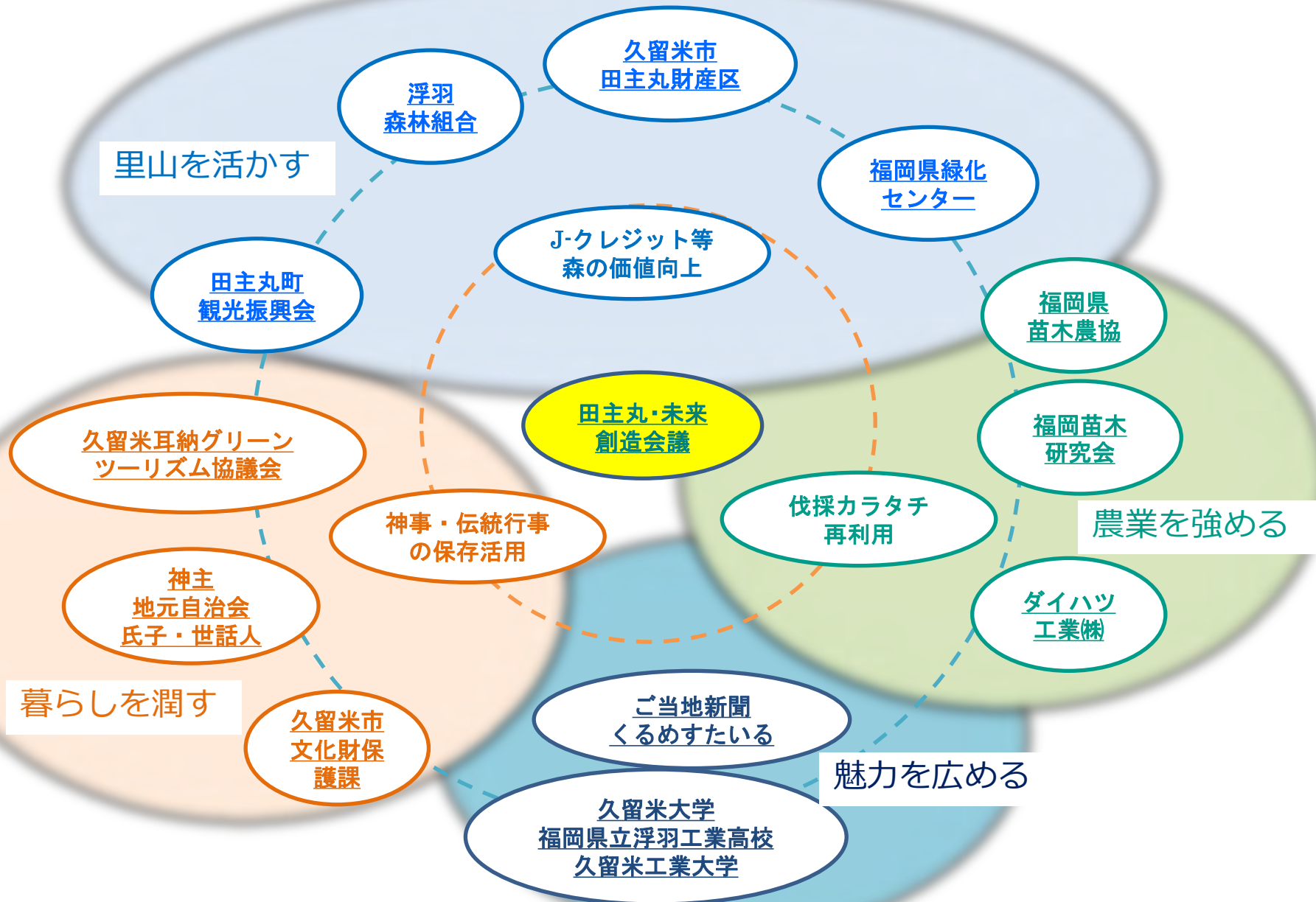
# 令和5年度 環境で地域を元気にする 地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

## 第1回意見交換会 発表資料

活動団体名：田主丸・未来創造会議

活動地域：福岡県久留米市田主丸町

# 目指す“地域プラットフォーム”のイメージ



# 地域プラットフォームが取り組む事業



国土地理院ハザードマップポータルサイトの「重なるハザードマップ」で作成した図に地形情報も追加 資料提供： 国土地理院 全国防災マップ（ズームズ）：平成29年12月21日

主催：田主丸・未来創造会議 後援：久留米市  
災害復興シンポジウム

「里山とともに生きる暮らし～災害を体験して歴史に学ぶ」  
300年前の災害をふり返り、里山のことを皆で考えてみませんか？

令和5年11月18日(土) 午後1時30分～午後4時30分  
久留米市立水縄小学校 体育館 開場：午後1時 無料  
(オンライン中継もあります)

このシンポジウムは、環境省地域循環共生圏づくりの支援を受けています。



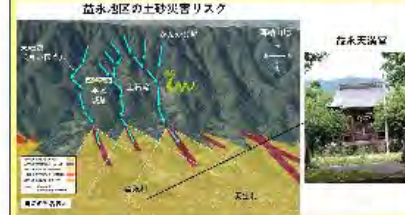
国土地理院ハザードマップポータルサイトの「重なるハザードマップ」で作成した図に地形情報も追加 資料提供： 国土地理院 全国防災マップ（ズームズ）：平成29年12月21日

## ■ 基調講演 「よみがえる300年前の耳納連山豪雨災害、 当時の里山と人のつながり」

九州大学大学院 工学研究院 西山浩司助教

(プロフィール)

古文書などの災害記録から過去の災害や当時の気象状態を再現し、その成果を現在の防災につなげる活動を長年されています。2016年からは耳納連山で約300年前に起こった大規模な土砂災害を集落別に研究され、「災害伝承から防災へ 享保5年7月九州北部豪雨」というタイトルで九州大学ホームページに公開されています。竹野校区で防災講話や防災街歩きを開催されたこともあります。



表紙および上の災害再現地図は、いずれも九州大学ホームページ上の題名「災害伝承から防災へ 享保5年7月九州北部豪雨」から引用したものです。ホームページを閲覧されるには、上記題名でインターネット検索してください。URLは次の通りです。  
[https://www.7.civil.kyushu-u.ac.jp/suiker/mino\\_disaster/index.html](https://www.7.civil.kyushu-u.ac.jp/suiker/mino_disaster/index.html)

## ■ 航空レーザー計測による今回の土砂災害の状況報告も予定。

(アジア航測株式会社)

## ■ 災害や里山への疑問や思いがきっとあるはず。そんな皆さんと語り合える時間もご用意します。

(シンポジウムの主な内容)

- 【第1部】(13:30～14:40予定)
  - ・耳納連山の災害状況報告(アジア航測株式会社)
  - ・基調講演(九州大学大学院 西山浩司助教)
- 【第2部】(14:55～16:30予定)
  - ・今回災害に関してパネリストコメント  
西山助教、吉弘辰一氏(田主丸財産区議長)、  
田中徹氏(株)ビーワゴン代表・地域活性化専門家)、  
吉岡秀蔵氏(三好寺区)
  - ・語り合いの場(一部、グループに分かれて)

※都合により上記の内容に変更が生じる場合がございます。

(来場参加/オンライン参加の申し込み)

- ・来場参加：先着130名、オンライン参加：先着500名。
- ・申込締切日：令和5年11月16日(木) 20:00。  
(当日でもご来場できますが、会場の都合により立ち見やご来場できない場合がございます。)

・申込方法：ファックス(専用申込み送信票のみの受付)、  
申込URL、申込コード

FAX 0943-72-4959 ※申込み専用送信票のみの受付  
(久留米観光コンベンション国際交流協会 田主丸事務所 担当：右田)

申込URL  
<https://forms.gle/xn4sLywdpHQLp8zaA>

オンライン中継はZoomで行います。  
オンライン参加の場合は、参加案内メールを送ります。  
視聴環境により受信しただけの場合があります。  
中継を視聴する通信料等は参加者の負担です。

申込コード



※駐車場は水縄小の校庭ですが、雨天は使えません。当日案内された周辺場所に駐車願います。台数は限りがあり、ご了承ください。  
※シンポジウムに関するお問い合わせは、当シンポジウム専用メール [renzansympo@gmail.com](mailto:renzansympo@gmail.com) まで。

## 他の団体に聞きたい事・相談したい事

- 災害に見舞われた時、どうやって地域の自信を取り戻すか？
- 長い復興の過程で、どのような関係交流の在り方が理想か？
- 地域に潜む災害の危険性を踏まえ、日頃からどのような活動ができるか？